

「審議会等の会議結果のお知らせ」
スポーツ推進審議会の会議結果について

令和元年7月29日に開催しました審議会の概要は下記のとおりです。

記

- 1 開催日時 令和元年7月29日（月） 15時00分から16時40分
 - 2 開催場所 佐賀市役所大財別館4階 第3会議室
 - 3 出席者の氏名
林正博（会長）、坂元康成（副会長）、徳光清孝、吉永美紀、伊東健児、
山田力也、西村文子、田中夏美、嘉村英哲、久米ハル子、光武香織、原敏朗
〈事務局〉
古賀地域振興部長、稲富スポーツ振興課長、馬郡スポーツ振興課副課長兼スポーツ
係長、野田管理係長、吉谷スポーツコンベンション係長、堤スポーツ係主査、前田
スポーツ係主任
 - 4 欠席者の氏名
池田ひとみ、大坪泰、渡邊由美子
 - 5 議題
「第2次佐賀市スポーツ推進計画」素案について（資料1・2）
 - 6 会議の公開又は非公開の別 公開
 - 7 非公開の理由（会議を非公開とした場合に限る。）
 - 8 傍聴者数（会議を公開した場合に限る。） なし
 - 9 発言の内容
- ◎ 「第2次佐賀市スポーツ推進計画」素案について、資料に沿って事務局より説明

【主な意見】

- ◎ スポーツを取り巻く本市の現状と課題について
- ・「高齢社会の進展」の表現について、高齢社会はどちらかというところではなくて、ネガティブなものなので「進展」という言葉よりは「進行」、或いは、「超高齢社会」という言葉を使うとか、「進展」という言葉に少し違和感がある。
 - ・「健康長寿の延伸」の表現について、文書の中に「健康寿命」というのが出てくるが、「健康寿命」の方がいいのかなど。平均寿命と比較して健康寿命というのではないかと思う。
 - ・「スポーツの個人主義化」は、個人主義化とまではまだ至っていないのではないか。その傾向は強くなっているが、「個人化」「個性化」くらいの方が、やわらかい表現でいいのではないか。

(事務局)

高齢社会を特段ネガティブには捉えておらず、高齢社会が悪いわけではないと考えている。
「健康長寿の延伸」については、「健康寿命の延伸」に修正を行う。
「スポーツの個人主義化」については事務局でも表現が強いかということで意見を交わしたところ。検討したい。

◎ 競技スポーツの推進について

- ・基本施策の「競技スポーツの推進」に「交流事業を実施することで、トップレベルの技術に触れる機会を作り、市民の競技力の向上に努めます」と記載があるが、具体的取り組みでは、技術指導の実施ということを、明確に書かれているので、交流事業という表現をしまうと、生涯スポーツの推進の中のスポーツによる交流の推進の中の位置付けのようにも取れるので、あくまでも競技力向上のための具体的取り組みの中では、表現としても、技術指導というのを明記したほうがよいのではないか

(事務局)

トップチームとの交流には二つの効果があり、一つはトップチームとの交流で、子どもや大人も、スポーツをやってみようかなというきっかけに繋がるということ。もう一つは、具体的にそのスポーツの技術を指導していただくことで、技術力が向上するということ。基本施策の「競技スポーツの推進」は、技術指導に特化した表現に修正をしたい。

◎ 事業の評価方法について

- ・この計画をどういうふうに進めるか、実務段階には触れられていないような気がする。横断的な組織がないと、本当に実現するのかという問題がよぎる。実際にどうそれが数字的に、反映されたのかということが重要だろうと思う。

(事務局)

計画に具体的な事務事業までは記載していないが、この計画に基づいて事務事業を行い、この審議会でも年度毎の成果や課題等について報告し、評価を受けていく。また、事務事業については内部で評価を行い、チェックを実施する。

◎ 利用しやすい施設予約システムの普及について

- ・学校体育施設や公民館の施設予約をインターネット（システム）で出来ないか。すべての施設の状況がインターネットで一括して把握できると楽ではないか。

(事務局)

学校体育施設は学校行事が最優先なので、施設の使い方を含めて学校行事との調整が必要。また、公民館では、地域行事等との調整が必要であるため、紙による申請を実施しているが、AIの導入も含め検討していきたい。

◎ 学校体育施設について

- 学校体育施設はどの施設も観覧席、見学する所がない。物が置いてあったり、一部壊れたりして2階に上がれないところもある。
競技者だけの会場になっている。予算等の兼ね合いもあるが、計画的にそういう基本的な見学者への対応というのをどうとらえるのか。
「みる」スポーツと、「する」スポーツという表現があるが、観覧席から見やすくなったりとか、応援できるようになったりということも具体的に実施をして欲しい。
- 市民の方々にとって一番身近なものが学校体育施設であるため、努力していますよというところを出すためにも、例えば、「1団体の利用日数や利用時間を制限する」とか、一言入れると「がんばってくれているな」と感じる。「より多くの市民が利用できるような運営方法や検討」のような月並みな表現で記載するより、PRになるのではないかと。
- 日曜日は学校体育施設を市民に開放していることがあまり知られていない。特別なことがない限り校区民に開放をしていることが、浸透してないような気がする。
- 体育館を2分の1借用して、実際には4分の1くらいしか使用していないと、借りられなかった人たちからは苦情が出る。有効活用するような表現を盛り込んだらどうかと思う。
- 学校体育施設（体育館）は、学校の規模によって大きさが違うため、大きい学校の体育館だと2団体同時に活動できるが、小さいところだと1団体で満杯。そういうような状況も現実にある。なるべく多くの人々が利用できるようにするには、その現場でお互いに考えていくということが必要だと思う。

(事務局)

学校体育施設については、文科省から、学校体育施設の現状を維持して、利用できる部分は利用するという趣旨で始まった事業であり、学校の施設なので観覧席はない。「みる」スポーツに対応するところは、社会体育施設を使って欲しい。学校体育施設は「する」スポーツの観点で、対応している。不十分という意見もあるかと思うが、学校の授業の延長上で地元開放して有効利用してもらおうという趣旨で、学校にはお願いをしている。

学校体育施設の備品等の破損や施設の修繕箇所等については、毎年度学校の要望を聞き、対応できる部分は対応をしている。

学校体育施設がスポーツ活動の場の一つであるということを広く周知したい。運用については継続して協議する。

◎ 指定管理者による管理・運営の推進について

- 指定管理者のレベルアップと教育は一つの経費削減にもなると思う。荒れている施設も見受けられるため、指定管理者についての事前のチェックと、委託後の管理者の教育、具体的に教育プランを立てて、研修・チェックをすることも必要。

(事務局)

指定管理者のレベルアップという意見は、施設の検討委員会でも意見が出ており、昨年度

から指定管理者には、改善の指導等を行いレベルアップに努めている。

◎ トップチームやアスリートによる技術指導の実施について

- ・トップレベルの技術に間近で触れる機会を創出することで競技力等の向上を図りますとあり、「特に、トップレベルの選手との技術指導」とあるが、「トップレベルの選手による技術指導」だと思うのだが、それを通じて「スポーツの楽しさや魅力を伝え、スポーツへの関心を高めます」となっている。

直接的に、特に技術指導ということが明記してあるので、この終わり方が、「競技力等の向上を図ります」の方が良いのではないか。

最初の「触れる機会を創出することで、スポーツの楽しさや魅力を伝え・・・」そこでスポーツへの間口が広がり、そのうえで技術指導が個別具体的な取り組みとしてあることで競技力向上に繋がるというほうが、よりわかりやすい感じがする。

(事務局)

委員の意見を参考にする。スポーツへの間口が広がった上で、さらに技術指導として特化していくことが今回の取り組みに近い表現である。

◎ 大会（障害者スポーツも含む）の開催支援について

- ・障がい者スポーツの開催支援については、前回の計画にもあり、今回も入っているが、何か規模や一定の基準があるのか。各種大会の円滑な運営を支援ということで、実際に市の方がこられて何かされるのか。

(事務局)

障害者スポーツの大会では、卓球バレーの大会と車いすバスケットの大会に、補助金等を交付している。大会の会場の確保についても、大会規模が九州大会以上のため、あらかじめ施設の優先予約を行っている。そのほかの大会等については、名義後援等を行っている。一昨年度には、障がい者の水泳の九州大会が佐賀で行われ、大会へ補助金を交付した。

◎ ビジネスパーソン・女性のスポーツ推進について

- ・子どもも高齢者も障がい者も、すべて女性は含まれている中で、ここでは、ビジネスパーソンの世代及び主婦を含めた女性のことを指しているのか、すべての女性を問題視しているのか。

(事務局)

ビジネスパーソンと女性のスポーツ実施率が低いというのが事実としてあり、アンケートの対象が18歳以上のため、子どもは別だが、女性が低いというのはすべてにかかる。そのため、ビジネスパーソンと女性のスポーツ実施率の低さに、何らかの対策が必要と考えている。

◎ スポーツ合宿等の積極的誘致について

- ・ 佐賀市内でどんなスポーツの合宿だったらここでできるとか、そういったものの具体例があれば教えていただきたい。

(事務局)

しゃくなげ湖でのボート合宿は、実業団が3年続けて来られて、定着しつつある。

その他では、市立野球場での独立リーグ、健康運動センターと県総合運動場も絡めながら、プロサッカーチームの合宿。

体育館競技が、なかなか市有施設では入ってこないが、県総合体育館でオーストラリアの代表チーム、東京オリンピック関係で言うと、フィンランド代表チームが最大16競技の合宿を行う。県総合運動場では、ニュージーランドの陸上代表チームが合宿を予定しており、その他、タイのアーチェリーチームが森林公園のアーチェリー場で合宿をする予定。

そのほか、市立弓道場にも、先日大学から打診があった。

大学に誘致の説明会を行い、人工芝だとアメフトやラグロス、アルティメットの合宿をやりたいという話もある。

10 その他 次回会議日程について事務局から報告

11 問い合わせ先

佐賀市 地域振興部 スポーツ振興課

担当者 馬郡

電話番号 0952-40-7360